

Asteria[☆] warp

環境移行ガイド

ご注意

本書は著作権法により保護されています。アステリア株式会社による事前の許可無く、本書のいかなる部分も無断転載、複製、複写を禁じます。本書の内容は、将来予告無しに変更することがあります。

ASTERIA およびアステリアは、アステリア株式会社の登録商標です。

このマニュアルに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその会社および製品を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

2025年12月17日

アステリア株式会社

Copyright © 2025 Asteria Corp. All rights reserved.

目次

1. 移行する前に【必ずお読みください】.....	4
1.1. ASTERIA Warp 2306 より前のバージョンをご利用の場合	4
1.2. 使用する Java の変更について	4
1.3. フォルダー名や Windows サービス名の変更について	4
1.4. 新バージョンのインストールについて	5
1.5. 廃止された機能について	5
1.6. チェックポイントについて	5
1.7. 3rd パーティ製のアダプターについて	5
1.8. Timer/SingleSchedule/IntervalSchedule/RegularSchedule コンポーネントで大容量ス トリームを使用している場合について	6
1.9. JDBC ドライバーについて	6
1.10. ユーザーライブラリについて	6
2. データを移行する	7
2.1. 移行ツールについて	7
2.2. 移行ツールのダウンロードについて	7
2.3. 移行ツールの起動方法について	8
2.4. 移行ツールを実行する前の注意点	11
2.5. データの移行方法について	12
2.6. 移行したフローの動作を確認する	14
2.7. 移行ツールの実行でエラーが発生した場合	14
3. 付録	15
3.1. 移行ツールの起動オプションについて	15
3.2. 移行ツールによる移行済みデータフォルダーに対する再実行について	15
■ 移行ツール修正履歴	16
■ 改版履歴	20

1. 移行する前に【必ずお読みください】

1.1. ASTERIA Warp 2306 より前のバージョンをご利用の場合

ASTERIA Warp 2306 より前のバージョンから ASTERIA Warp 2412 以降のバージョンへは移行できません。ASTERIA Warp 2306 より前のバージョンをご利用の場合は、必ず ASTERIA Warp 2406 へバージョンアップしてから ASTERIA Warp 2412 以降のバージョンへ移行してください。

また、以後この文書では、移行元となる ASTERIA Warp 2306 から 2406 までのバージョンのことを旧バージョン、移行先となる ASTERIA Warp 2412 以降のバージョンのことを新バージョンと記します。

1.2. 使用する Java の変更について

ASTERIA Warp 2412 以降では、実行環境として JDK Development Kit 21 以降の LTS 版の JDK を使用します。ASTERIA Warp 2412 以降をインストールする前に JDK21 以降の LTS 版(x64)のインストールが必要になります。インストールする ASTERIA Warp のバージョンでサポートされている JDK の LTS 版(x64)を使用してください。

また、ASTERIA Warp 2412 Windows 版をインストールする場合、JDK は MSI インストーラーを使用してインストールしてください。それ以外のバージョンの場合、JDK は MSI インストーラーを使用しなくても問題ありません。

1.3. フォルダー名や Windows サービス名の変更について

ASTERIA Warp 2412 からインストーラーで設定するインストールフォルダーの初期フォルダーなどが次のように変更されましたのでご注意ください。

	変更前	変更後
フローサービス インストールフォルダー	asteria5	asteria6
フローデザイナー インストールフォルダー	ASTERIA Warp Flow Designer	ASTERIA Warp Flow Designer6
Windows サービス名	ASTERIA5.FlowService	ASTERIA6.FlowService
Windows サービス表示名	ASTERIA Warp	ASTERIA Warp6
フローサービス スタートメニュー	ASTERIA Warp	ASTERIA Warp6
フローデザイナー スタートメニュー	ASTERIA Warp Flow Designer	ASTERIA Warp Flow Designer6

1.4. 新バージョンのインストールについて

移行ツールを実行するには、初期設定まで完了しておく必要があります。インストールガイドの「2.2 初期設定の実行」までを参照ください。初期設定で指定するポート番号には、旧バージョンと同じポート番号を指定してください。また、初期設定で指定するデータフォルダーには、旧バージョンのデータフォルダーと同じフォルダーを絶対に指定しないようにしてください。同じフォルダーを指定した場合、旧バージョンのデータフォルダーに新バージョンのデータフォルダーが上書きされて移行できなくなります。

1.5. 廃止された機能について

ASTERIA Warp 2412 で次の機能が廃止されました。

- Subversion を使用したバージョン管理機能
- SOAP 実行設定(SOAPトリガー)
- SOAP テンプレートフロー
- Web サービス関連コンポーネント
- Notes 関連コンポーネント
- TableauMakeHyper/TableauMakeTde/TableauPublishTde コンポーネント
- Handbook 関連コンポーネント
- JSONEncode/JSONDecode コンポーネント
- 旧 PDF コンポーネント、旧 PDFMerge コンポーネント
その代わりに PDF2 が PDF に PDFMerge2 が PDFMerge に名称変更になりました
- ImageConverter コンポーネント
- StrToDate マッパー関数
- FormatDate マッパー関数

上記リストの赤字の機能を使用しているフローは移行できませんので、事前に旧バージョンにてこれらのコンポーネントを使用しない方法でフローを実装しなおしてください。上記リストの黒文字の機能は代替機能がございます。

1.6. チェックポイントについて

エンタープライズエディションでチェックポイントを使用している場合には、エラーとなっているチェックポイントのリクエストは移行されません。移行前にエラーとなっているリクエストを再実行してください。

1.7. 3rd パーティ製のアダプターについて

3rd パーティ製のアダプターの移行方法につきましてはアダプター製造元にお問い合わせください。

1.8. Timer/SingleSchedule/IntervalSchedule/RegularSchedule コンポーネントで大容量ストリームを使用している場合について

Timer/SingleSchedule/IntervalSchedule/RegularSchedule コンポーネントの入カストリームが大容量ストリームの場合、フロー内でこれらのコンポーネントにより登録されたスケジュールは移行ツールで移行されないことがあります。移行ツールの実行ログに次のようなスケジュールファイル(.scx)のログが出力された場合は、実行予定のフローなどからスケジュールを登録したフローを特定し、移行後に再度そのフローを実行してスケジュールを再登録してください。

```
ファイルをチェックします : C:\asteriahome5\data\schedule\xxxxxx.scx  
[警告]大容量ストリームを使用するスケジュールは移行されません : スケジュール ID は xxxxxx で、次回の  
実行予定時刻は 2025-02-23T19:16:27 UTC、実行予定のフローは /guest の Project1.TimerSub です。
```

上記のようなログが出力されていない場合、スケジュールは正常に移行されています。

1.9. JDBC ドライバーについて

JDBC ドライバーは移行されません。使用する Java のバージョンに対応した JDBC ドライバーをダウンロードし、次のフォルダーにコピーしてください。

```
[新バージョンのデータフォルダー]/system/lib/drivers
```

それに対して、RDB コネクションのコネクション情報は移行されます。必要に応じて新しい JDBC ドライバーのコネクション情報に更新してください。また、必ずコネクションテストを行い RDB コネクションが正常に接続できることを確認してください。

1.10. ユーザーライブラリについて

コンポーネントが使用する別途インストールしたユーザーライブラリは移行されません。各コンポーネントのヘルプを参考に、必要なライブラリをダウンロードし、次のフォルダーにコピーしてください。

```
[新バージョンのデータフォルダー]/system/lib/userlib
```

2. データを移行する

2.1. 移行ツールについて

旧バージョンから新バージョンへの移行には、移行ツールと呼ばれるコマンドラインツールを使用します。移行ツールには次のような機能が含まれます。

- 定義ファイルやプロジェクトファイルなどのコピー機能
- 代替コンポーネントへの置き換え機能
- 移行前の事前確認機能
 - 「1.5 廃止された機能について」で対応が必須の項目についてログ出力を行うなど、どのようなデータ移行が行われるかを事前に確認できます。

2.2. 移行ツールのダウンロードについて

移行ツールはユーザーサイト上で公開されています。ユーザーサイトにログイン後に「マイページ>ダウンロード>最新のリリース製品」画面からダウンロードしてください。ユーザーサイトのログイン URL は次の通りです。

【URL】<https://asteria.com/mng/login>

ダウンロードした移行ツールのファイル名は次のようなファイル名となっています。

migrationtool-XXXX.XXXX.zip

ここで、上記ファイル名の「XXXX.XXXX」の部分はバージョン番号となっており、例えば、

migrationtool-2412.2229.zip

のようなファイル名となります。

2.3. 移行ツールの起動方法について

移行ツールをダウンロードしたら次の手順で移行ツールを起動します。

(1) 移行ツールをコピーします

新バージョンのインストールされているサーバーにダウンロードした移行ツールを配置します。新バージョンのインストールされている OS に応じてコピー & ペースト、FTP や SCP などファイルを配置してください。

(2) 移行ツールを解凍します

◆Windows の場合

エクスプローラーで展開、もしくは、zip 解凍ツールで展開します。

◆Linux の場合

必要に応じて zip コマンドをインストールしてから unzip コマンドで展開します。

(3) 移行ツールを解凍すると次のようなファイル構成になっています

項番	ファイル/フォルダー名	説明
1	migration-tool.bat	Windows 用の実行ファイル(バッチファイル)
2	migration-tool	Linux 用の実行ファイル(シェルスクリプト)
3	libs フォルダー	実行に必要なライブラリが格納されているフォルダー

新バージョンのインストールされている OS に応じて、項番1のバッチファイルまたは項番2のシェルスクリプトのどちらか一方のファイルを使用します。

(4) 実行情報を設定します

上記の実行ファイルをテキストエディターで開きます。

◆Windows の場合

実行ファイルの 5 行目と 6 行目の JDK_DIR と INSTALL_DIR を、新バージョンをインストールした環境に合わせて設定します。

```
set JDK_DIR=C:¥Program Files¥Java¥jdk-21
set INSTALL_DIR= C:¥Program Files¥asteria6
```

上記の赤字部分を、新バージョンをインストールした環境に合わせて編集してください。

◆Linux の場合

実行ファイルの 3 行目と 4 行目の JDK_DIR と INSTALL_DIR を、新バージョンをインストールした環境に合わせて設定します。

```
JDK_DIR=~/jdk-21.0.5  
INSTALL_DIR=~/asteria6
```

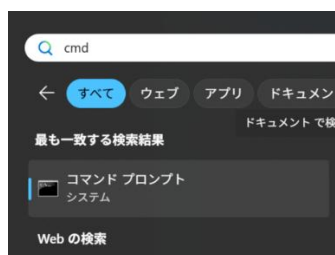
上記の赤字部分を、新バージョンをインストールした環境に合わせて編集してください。

(5) 移行ツールを仮実行する

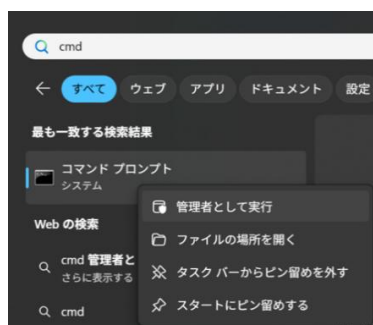
ここまでの設定が正しく行われているかどうかを確認するため、移行ツールを試しに実行します。

◆Windows の場合

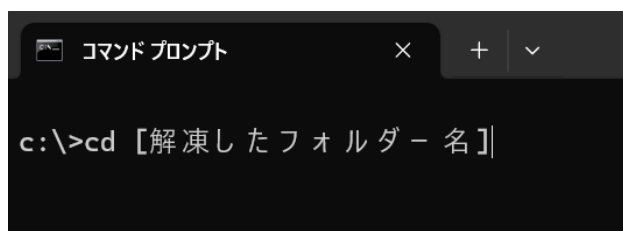
移行ツールを実行するには管理者権限で実行する必要があります。管理者権限のコマンドプロンプトは様々な方法で開くことができますが、簡単な方法として次のような方法があります。最初に Windows のスタートメニューを開き、検索ボックスに「cmd」と入力します。



検索結果に表示される「コマンドプロンプト」を右クリックし、ポップアップメニューの「管理者として実行」をクリックすることで、管理者権限のコマンドプロンプトを開くことができます。

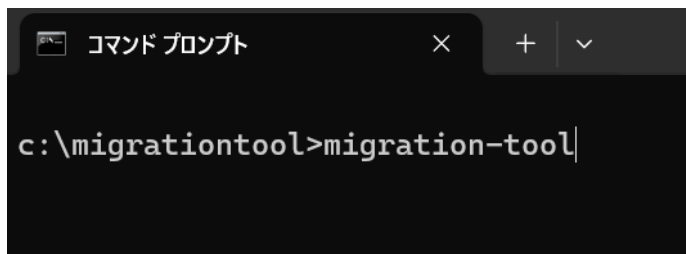


次に、コマンドプロンプト上で、移行ツールを解凍したフォルダーに移動します。



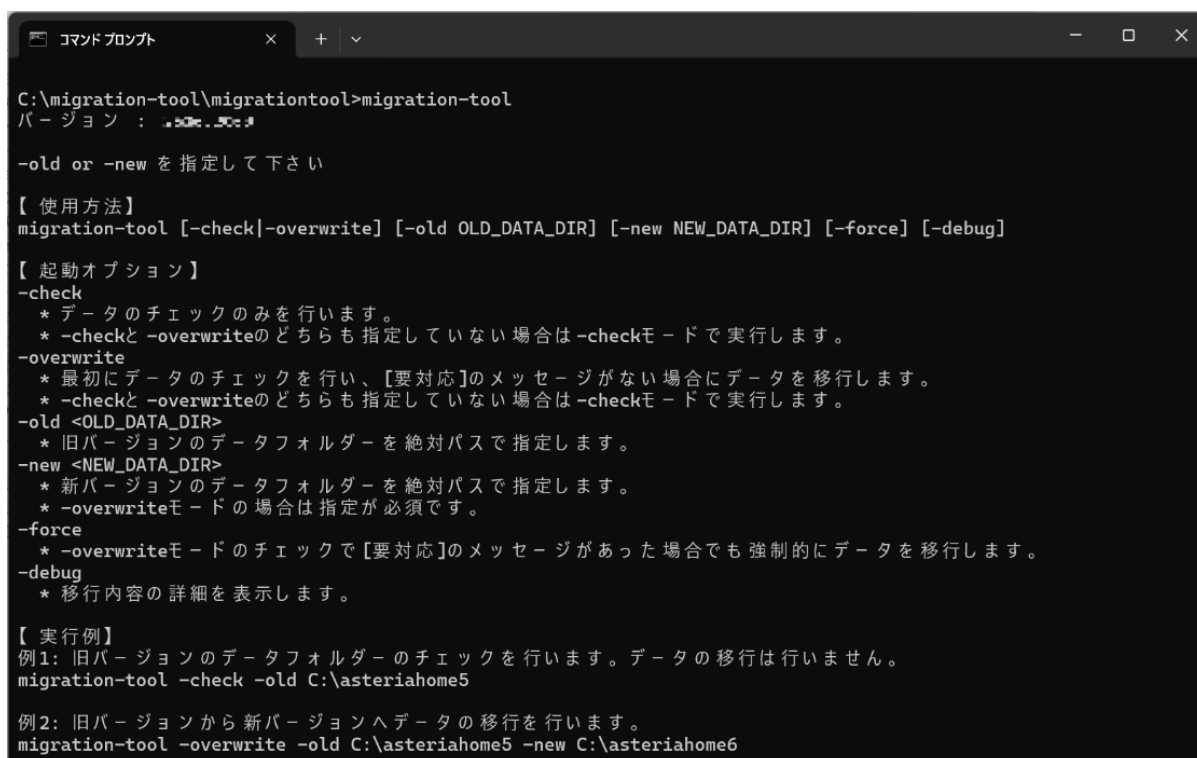
例としては、`cd c:¥migrationtool` のようになります。

最後に、移行ツールを実行します。コマンドプロンプト上で `migration-tool` と入力して Enter キーを押します。



```
コマンド プロンプト
c:\migrationtool>migration-tool
```

しばらくしてから、次のように使用方法が表示されれば設定は正しく行われています。



```
コマンド プロンプト
C:\migration-tool\migrationtool>migration-tool
バージョン : 1.0.0

-old or -new を指定して下さい

【使用方法】
migration-tool [-check|-overwrite] [-old OLD_DATA_DIR] [-new NEW_DATA_DIR] [-force] [-debug]

【起動オプション】
-check
* データのチェックのみを行います。
* -checkと -overwriteのどちらも指定していない場合は -checkモードで実行します。
-overwrite
* 最初にデータのチェックを行い、[要対応]のメッセージがない場合にデータを移行します。
* -checkと -overwriteのどちらも指定していない場合は -checkモードで実行します。
-old <OLD_DATA_DIR>
* 旧バージョンのデータフォルダーを絶対パスで指定します。
-new <NEW_DATA_DIR>
* 新バージョンのデータフォルダーを絶対パスで指定します。
* -overwriteモードの場合は指定が必須です。
-force
* -overwriteモードのチェックで [要対応]のメッセージがあった場合でも強制的にデータを移行します。
-debug
* 移行内容の詳細を表示します。

【実行例】
例1: 旧バージョンのデータフォルダーのチェックを行います。データの移行は行いません。
migration-tool -check -old C:\asteriahome5

例2: 旧バージョンから新バージョンへデータの移行を行います。
migration-tool -overwrite -old C:\asteriahome5 -new C:\asteriahome6
```

◆Linux の場合

まず最初に、コンソール画面上で移行ツールを解凍したフォルダーに移動します。

```
$cd [解凍したフォルダー名]
```

例としては、`cd migrationtool` のようになります。

次に、移行ツールのシェルスクリプトに実行権限を付与します。

```
$chmod u+x migration-tool
```

最後に、移行ツールを実行します。コンソール画面上で **migration-tool** と入力して Enter キーを押します。

```
$migration-tool
```

しばらくしてから、次のように使用方法が表示されれば設定は正しく行われています。

```
$migration-tool
バージョン : 2XXX.XXXX

-old or -new を指定して下さい

【使用方法】
migration-tool [-check|-overwrite] [-old DATA_DIR_OLD] [-new DATA_DIR_NEW] [-force] [-debug]

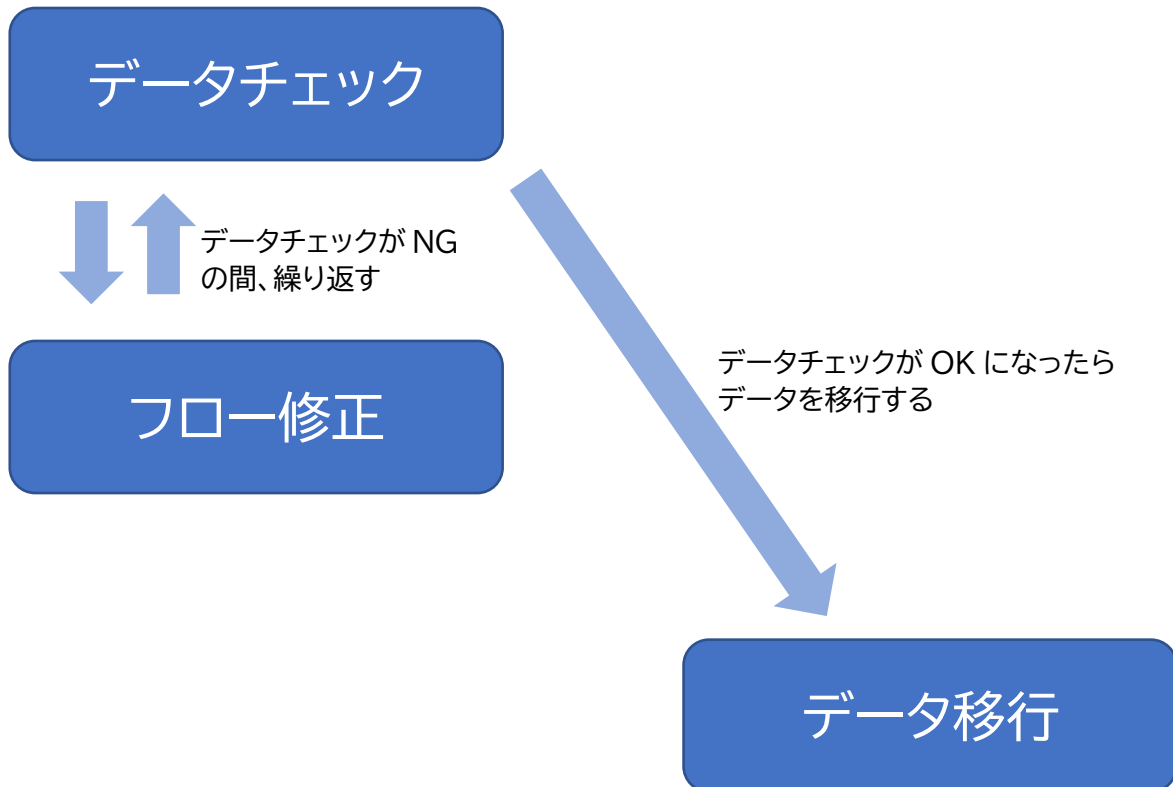
【起動オプション】
-check
* データのチェックのみを行います。
* -check と-overwrite のどちらも指定していない場合は-check モードで実行します。
-overwrite
* 最初にデータのチェックを行い、[要対応]のメッセージがない場合にデータを移行します。
* -check と-overwrite のどちらも指定していない場合は-check モードで実行します。
-old <DATA_DIR_OLD>
* 旧バージョンのデータフォルダーを指定します。
-new <DATA_DIR_NEW>
* 新バージョンのデータフォルダーを指定します。
* -overwrite の場合に指定が必須です。
-force
* -overwrite モードのチェックで[要対応]のメッセージがあった場合でも強制的にデータを移行します。
-debug
* 移行内容の詳細を表示します。
$
```

2.4. 移行ツールを実行する前の注意点

移行ツールを実行する前に、旧バージョンと新バージョンのサーバーを両方とも停止してください。移行ツールで実行する機能に関わらず必ずサーバーを停止する必要があります。もしもサーバーを停止していなかった場合、正常に移行できないことがあります。

2.5. データの移行方法について

移行ツールを使って旧バージョンから新バージョンへ移行するためには次のステップが必要になります。



まず最初に、移行ツールを使って、旧バージョンから新バージョンへデータ移行が可能かどうかをチェックします。データチェックを行うためには、次のようにして移行ツールを実行します。

```
migration-tool -old [旧バージョンのデータフォルダー]
```

実行例としては、`migration-tool -old c:¥asteriahome5` となります。

チェックを実行するとチェック結果として「**要対応**」、「**警告**」、「**自動変換**」の 3 種類のメッセージが出力されます。チェック結果に、「**要対応**」と表示されたフローが存在していた場合は、そのフローには新バージョンでは使用できない機能が含まれています。次ページの例の場合、「852902.xfp」に SOAPDecoder コンポーネントが2つ存在することが分かります。SOAPDecoder コンポーネントはバージョン 2412 で廃止されたコンポーネントなので、バージョン 2412 以降のバージョンではこのフローは動作しません。

* 実行状況:

チェック対象 : c:\asteriahome5
実行日時 : 2025/01/30 16:06

* ホームフォルダ:

/asu : home\asu
/guest : home\guest

* Check:

ファイルをチェックします : c:\asteriahome5\system\conf\flowservice.ifx
[自動変換]FlowSchedule の設定がありません
[自動変換]FlowSchedule の設定がありません

...(中略)...

プロジェクトファイルをチェックします (5/6) :

c:\asteriahome5\home\guest\852902\852902.xfp

[要対応] 廃止されたコンポーネントが見つかりました :
852902.Flow1.SOAPDecoder1

[要対応] 廃止されたコンポーネントが見つかりました :
852902.Flow2.SOAPDecoder1

要対応: 2, 警告: 0, 自動変換: 0

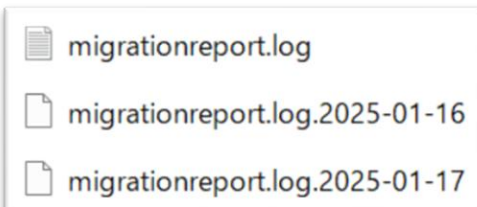
プロジェクトファイルをチェックします(6/6) : c:\asteriahome5\home\guest\ftp.xfp

要対応: 0, 警告: 0, 自動変換: 0

要対応: 2, 警告: 2, 自動変換: 11

自動変換した設定やフローが期待通り動くか確認が必要です

メッセージはコマンドプロンプトやコンソール画面上に表示されるだけでなく、新バージョンのデータフォルダーに「migrationreport.log」というファイル名で保存されています。移行ツールの実行するごとにメッセージはこのファイルに追記されますが、日付が変わって実行された場合は下図のように日付付きの名前のファイル名でログファイルは切り替わっていきます。



チェック結果で「要対応」と表示されたプロジェクトはそのままでは移行できません。旧バージョンで修正が必要なプロジェクトなので廃止された機能を使わないフローに修正する必要があります。

旧バージョンでフローを修正したら、再度移行ツールでチェックします。このサイクルを繰り返して「要対応」が0件となるようにします。「要対応」が0件となって初めて新バージョンへデータを移行することができます。

「要対応」が0件となったらいよいよ旧バージョンから新バージョンへデータを移行します。データを移行するには、次のようにして移行ツールを実行します。

```
migration-tool -overwrite -old [旧バージョンのデータフォルダー] -new [新バージョンのデータフォルダー]
```

実行例としては、

```
migration-tool -overwrite -old c:¥asteriahome5 -new c:¥asteriahome6
```

となります。

コマンドが正常に終了し、チェック時と同じような実行結果が表示されたらデータ変換は完了です。

2.6. 移行したフローの動作を確認する

データ移行が完了したので、新バージョンのサーバーを起動することができます。サーバーを起動すると登録済みのスケジュールや実行設定も即座に動作し始めることに注意してください。

移行ツールによるデータ移行は完了しましたが、新バージョンで正しく動作するか検証が必要になります。特に「警告」、「自動変換」と表示されたプロジェクトについてはフローの動作が想定通りであるか必ず検証してください。

「警告」の例として正規表現を使用しているマッパー関数の例が下の例になります。

```
プロジェクトファイルをチェックします(4/6) : c:¥asteriahome6¥home¥guest¥Project1.xfp  
[警告]正規表現を使用したコンポーネント/マッパー関数は挙動が変わる可能性があるため確認  
が必要です : Project1.Flow1.Mapper1.RegexpMatch1  
要対応: 0, 警告: 1, 自動変換: 0
```

Project1 の中の Flow1 の中の Mapper1 に配置されている RegexpMatch1 関数は正規表現を使用しているため想定通りの動作になっているか検証が必要になります。

このようにして、「警告」または「自動変換」と表示されたフローの動作をすべて検証します。すべての検証が終わったらデータ移行は完了です。

2.7. 移行ツールの実行でエラーが発生した場合

移行ツールの実行でエラーが発生した場合、そのままでは再度移行ツールを実行する事はできません。 ASTERIA Warp をアンインストールして再インストールし、初期設定を完了した後に、もう一度移行を行ってください。

3. 付録

3.1. 移行ツールの起動オプションについて

移行ツールの起動オプションは次の表の通りです。

オプション	説明	例
-check	旧バージョンのデータのチェックのみを行います。「-overwrite」を指定しない場合はデフォルトの動作となります。	-check
-overwrite	最初に旧バージョンのデータのチェックを行い、「要対応」のメッセージが 0 件の場合のみデータ移行を行います。	-overwrite
-old [移行元データフォルダー]	移行元である旧バージョンのデータフォルダーを指定します。	-old c:¥asteriahome5
-new [移行先データフォルダー]	移行先のバージョンのデータフォルダーを指定します。	-new c:¥asteriahome6
-force	「-overwrite」と同時に指定した場合、「-overwrite」で最初に行われるチェック処理をスキップしてデータ移行を行います。つまり、「要対応」のメッセージが 0 件でなくてもデータ移行されます。	-overwrite -force
-debug	詳細なログを出力します	-debug

3.2. 移行ツールによる移行済みデータフォルダーに対する再実行について

移行ツールの不具合などにより、すでに移行済みの新バージョンのデータフォルダーに対して、再度移行ツールを実行しなければならない場合があります。この場合は、次の手順で移行ツールを実行してください。

1. サーバーを停止します。
2. 新バージョンのデータフォルダーとユーザーのホームフォルダーをバックアップすることを推奨します。
3. -old オプションを省略し、-check を指定して移行ツールを実行し、移行内容を確認します。
4. -old オプションを省略し、-overwrite を指定して移行ツールを実行します。
5. 移行ツールの実行ログを確認し、正常に移行されていることを確認します。
6. サーバーを起動します。

■ 移行ツール修正履歴

2025年12月18日

番号	内容
854636	移行ツールで同じバージョンの別データフォルダーへの移行に対応しました。
854924	データフォルダーパスの移行プロセスがスキップされた時に、スキップメッセージが REQUIRE_OLD と表示される不具合を修正
854925	データフォルダーパスの移行プロセスで「/data/aac」に対する移行を行った結果の件数が表示されない不具合を修正
855015	移行ツールを-check オプションを指定して実行した場合に、対象外のバージョンを-old もしくは-new に指定して実行してもエラーにならない不具合を修正
855281	kintone コネクションのクライアント証明書ファイルパスがデータフォルダー内を指している時に発生する不具合を修正
855514	Windows 環境において、移行ツールが管理者として実行されていない場合、エラーを表示して処理を終了するように変更しました。

2025年7月30日

番号	内容
854844	ユーザーのホームフォルダーがデータフォルダー外に設定されている場合に、ホームフォルダー内のファイルが移行されない不具合を修正
854852	ユーザーのホームフォルダーがデータフォルダー配下の home 内に設定されている場合でも、ホームフォルダーのパスが自動変換されない不具合を修正

2025年7月14日

番号	内容
854638	実行時のオプションをログに出力するようにしました。
854654	オプションを指定せずに実行した時に表示される-force オプションの説明文を修正
854655	移行ツールで-check を指定して実行した場合に、-old を指定していないと NullPointerException が発生してしまう不具合を修正
854681	ユーザーがSVNを使用しているかどうかのチェックで、サブドメインのユーザーが対象になっていない不具合を修正
854690	移行ツールでコンポーネントのカテゴリプロパティの値に古いデータフォルダーが含まれている場合に、警告メッセージが表示されない不具合を修正
854693	2012より前のバージョンから(段階的に)バージョンアップした2306や2312を-oldに指定した場合に、2025年2月28日リリースの移行ツールのチェック処理がスキップされてしまう不具合を修正

2025年6月25日

番号	内容
854137	移行元のバージョンとして2306と2312を追加しました。
854570	-oldと-newオプションに相対パスを指定できてしまう不具合を修正
854571	バージョン管理のロックファイル情報が移行されない不具合を修正
854577	SlackUploadコンポーネントが廃止されるためSlackUpload2に置き換えるようになりました。
854603	Windows環境で-oldオプションで指定したパスと置き換え対象のパスの大文字小文字が異なる場合に、同一のパスと判断されず置換されない不具合を修正

2025年5月23日

番号	内容
853835	旧バージョンのバージョンの確認方法を変更しました
854046	FTP コネクションのファイル名エンコーディングが UTF-8 以外の場合に警告が表示されるようになりました
854114	移行前にログの出力先が変更されていた場合に、FlowMetrics.log の出力先が変更されずにデフォルトのログ出力先のままになる不具合を修正
854352	2012 より前のバージョンから(段階的に)2406 にバージョンアップしていた場合に、フローのスケジュール実行がエラーとなる不具合を修正
854389	プロパティに設定されている空白文字だけの値が削除されてしまう不具合を修正
854398	2206 より前のバージョンから(段階的に)2406 にバージョンアップしていた場合に、一部のログが出力されないことがある不具合を修正
854403	移行チェック処理で予期せぬ例外が発生した場合に、ファイルの移行処理が実行されてしまう不具合を修正
854423	アプリケーションログの出力先フォルダーが旧バージョンのデータフォルダー内の場合に、出力先フォルダーが新バージョンのデータフォルダー内のフォルダーに変更されない不具合を修正

2025年3月26日

番号	内容
854049 854131 854132	2012 より前のバージョンから(段階的に)2406 にバージョンアップしていた場合に、フローデザイナーや FSMC からの操作がエラーとなる不具合を修正
854130	FSMC の「状態 > ログ > システム」画面の「ファイル名」ドロップダウンリストに FlowMetrics が表示されない不具合を修正
854133	関数コレクション内に配置されている廃止されたマップ関数が置き換えられない不具合を修正
854134	移行済みの新バージョンのデータフォルダーに対して移行ツールを再度実行できるようになりました

2025年2月28日

番号	内容
853863	PDFMerge コンポーネントが移行後に不明なコンポーネントになってしまう不具合を修正
853873	空のフォルダーが移行されない不具合を修正
853879	新バージョンの初期設定が完了していない場合に移行ツール起動時にエラーメッセージが出力されるように修正
853898	フォルダー名が日本語のフォルダーの配下に、自動変換対象のファイルがあると、自動変換後の保存時にエラーとなる不具合を修正
853926	Windows 環境で移行ツールの引数に指定するデータフォルダーのドライブ文字が小文字だった場合、ログの削除スケジュールで実行されるログ削除が旧バージョンのログフォルダーのログを削除してしまう不具合を修正
853937	スケジュールが移行されない不具合を修正
853994	コマンドの使用方法に表示されるコマンド名が誤っている不具合を修正

■ 改版履歴

版数	日付	内容
第1版	2024/12/24	新規作成
第2版	2024/12/25	「1.2 使用できる Java の変更について」の「LTS 版(x86)のインストール」を「LTS 版(x64)のインストール」に修正しました。
第3版	2025/01/30	全面改訂
第4版	2025/02/03	「1.4 初期設定の注意点について」を「1.4 新バージョンのインストールについて」に変更し、新バージョンは初期設定を完了する必要がある記述を追加しました。
第5版	2025/02/05	「2.4 データの移行方法について」の移行ツールの実行イメージの後にログファイルについて記述を追加しました。
第6版	2025/02/27	「1.8 Timer/SingleSchedule/IntervalSchedule/RegularSchedule コンポーネントで大容量ストリームを使用している場合について」、「1.9 JDBC ドライバーについて」、「■移行ツール修正履歴」を追加しました。
第7版	2025/03/26	「2.4 移行ツールを実行する前の注意点」、「3.2 移行ツールによる移行済みデータフォルダーに対する再実行について」を追加しました。
第8版	2025/06/23	移行元のバージョンとして 2306 と 2312 を追加しました。それに伴い、「1.1」の記述を全面的に見直しました。 「1.2 使用できる Java の変更について」のインストールする JDK のバージョンについての記述を変更しました。また、MSI インストーラーの記述を 2412 のみに修正しました。 2025 年 5 月 23 日の修正履歴の 854389 の内容で、「前後の空白文字」を「空白文字だけの値」に修正しました。
第9版	2025/07/14	「2.3.移行ツールの起動方法について」の(5)の Windows 版のスクリーンショットと Linux 版の起動時の使用方法を修正しました。
第10版	2025/07/30	「移行ツール修正履歴」を更新しました。
第11版	2025/12/18	「1.10.ユーザーライブラリについて」「2.7.移行ツールの実行でエラーが発生した場合」を追加しました。 「2.3.移行ツールの起動方法について」に管理者権限が必要であることを追記しました。 「移行ツール修正履歴」を更新しました。